

あおい通信 第154号

第154号 平成30年3月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3-17-5
カトビル3F
電話 03-3978-0919

日本の祭り 古川祭 (Miyakawa Festival) 世界遺産めぐり最終章 (文化遺産)

古川祭り

前号の高山祭りの後、毎年四月十九日、二十日に岐阜県飛騨市古川町(旧吉城郡古川町)で開催される気多若宮神社の例祭。「神輿行列」と祭りの開始を告げるために打ち鳴らしたといわれる「起し太鼓」と、絢爛豪華な九台の「屋台巡行」からなる。国の重要無形民俗文化財に指定、並びにユネスコの無形文化遺産に登録されている。

その起源は定かではないが、文献に最初に登場

概要

東西南北

最後まで闘将であったプロ野球の星野仙一さんが1月4日亡くなった70歳だった。楽天球団の副会長として選手補強などに最後まで尽力。チームは18年ぶりに王者になった。10年10月、監督に就任した楽天(創設9年目)では、13年にリーグ優勝。日本シリーズも制覇し日本一を達成した。監督通算16年目で、初めての日本一だった。

優勝を経験した監督となつた。手腕を買われ08年北京五輪の日本代表監督も務めたが、メダルには手が届かなかつた。岡山県出身。倉敷商高を卒業後、明大へ。1969年、中日にドラフト1位で入団した。指名されると思つていた巨人から声がかからず、「アンチ巨人」の旗印を掲げて対抗心をむき出しにしたプレーが人気を呼んだ。投手として82年までの14年間で、通算146勝121敗34セーブ、防御率3・60。74年には沢村賞に輝いた。闘志あふれるスタイルは指導者になつても変わらず、ついであだ名は「闘将」。



屋台

するのは屋台が一七七六年、起し太鼓が一八三一年である。

古川祭は古くは旧暦の八月六日(太陽暦の九月上旬頃)に開催されていたが、一八八六年八月に疫病が流行し例祭ができなくなったことから十一月に変更された。また一八八七年(明治二十年)より春祭へと変更し四月十六日、十七日としたが、一八八九年より現在の日程となった。一九八〇年一月二十八日に「古川祭の起し太鼓・屋台行事」として国の重要無形民俗文化財に指定された。また、日本三大裸祭りの一つに数えられる。

87年から91年、96年から2001年までの2回、中日を率いて1度ずつリーグ優勝を果たした。02年からは阪神を2季率いて、03年にはリーグ優勝を果たした。しかし日本シリーズでは、王監督の率いるダイエーに4勝3負で敗退した。野球殿堂入りを果たしてからわずか1年での急逝だった。楽天によると星野さんは2016年7月に臓臓がんが判明、病気を公表せず仕事を続けてきたが、昨年末になつて病状が悪化した。そんな中でも、来期の方針等を話し合うコーチ会議に意欲を見せていたという。K・ドラゴン

起し太鼓

文献では一八三一年に初めて登場する。通常例祭が行われる際には祭の開始を告げるために氏子地内を太鼓を鳴らして回る風習は各地に見られるが、太鼓行事そのものが独立した行事となつたことが特徴的である。四月二十日の本祭祭の開始を告げるために、十九日の深夜から太鼓を鳴らして氏子地内を巡つたことが



起し太鼓

始まりである。太鼓を乗せた櫓を「起し太鼓主事」と呼ばれる当番組が担ぐ。その太鼓の上の両側に男がまたがり、その両側より交互に太鼓を鳴らす。この太鼓をめぐって各台組の付け太鼓(現在は十二本存在する)と呼ばれる小さな太鼓が突入する。この付け太鼓は幕末頃より加わつたものといわれ、元来この地域の人々は「古川ヤンチャ」といわれる激しい気性が有名であり、これによって起し太鼓も非常に荒々しいものとなつた。そのため幾度となく「付け太鼓禁止」が出されたが、一九〇一年に解禁になり現在に至る。明治時代の起し太鼓では櫓に鉤を引っ掛けて荒城川に引きずり落としたことがある

談話室

一月二十一日の大雪があつた週の水曜日、朝十一時過ぎに電話がなつた。受話器を取ると男性の声で「やまだ電機のお宅ですが、山村マサコ様のお宅でしょうか?」と聞く。私の名前の漢字はマサと読むのが一般的だが、親の選んだ読み方は違い私の人生で同じ読み方の人であつたのは浅田真央ちゃんのお母さん唯一ひとり。私は知らない人から自分の名前の読み方を教えないので「当家にマサコはおりません」と電

話を切ろうとした。すると慌てて「山村様のお宅に間違いありませんね。いま当店で、山村様名義のキャッシュカードでお買い物をなさるうとする方が御来店で、念のためカード番号を確認させて頂こうと思つてお電話させて頂きました。?」と聞かされた。以前も息子を装つたオレオレ詐欺の電話を受けたが、電話の詐欺も巧妙になつたと感心しきり。皆様、特に女性の方、うっかり巧妙な語り口に乗せられないよう、くれぐれもお用心を!! (山村匡子「きょうこ」)

葵友の会 広報コーナー

2月の報告
16日(金)カラオケ「パンパン」にて、8名の参加。

3月の予定
7日(水)総会と越生梅林見学と昼食(温泉あり)。
16日(金)カラオケ

30年度、年会費を集めています。よろしくお願ひします。(事務局長)

確認はできません」と言うので「どなたかにお預けですか」と執拗に畳みかけてきた。これ以上の回答は無用。「私はキャッシュカード持つていませんので」と電話を切つた。以前も息子を装つたオレオレ詐欺の電話を受けたが、電話の詐欺も巧妙になつたと感心しきり。皆様、特に女性の方、うっかり巧妙な語り口に乗せられないよう、くれぐれもお用心を!! (山村匡子「きょうこ」)

◆編集委員会より「あおい通信」は皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島

人生八十八才を振り返って(続)

麻生伊登子

さて昭和二十年、十六歳で東京に出てきて就職・勉強、いろいろなことに夢中でした。十年間働き、結婚。

二人の娘に恵まれましたが、子育てしながら働こうと思いついて夫に相談したところ、ダメ出しです。それではと主婦業に専念となり、子育てに夫育てに一生懸命でした。結婚七年目に、狭い乍らも我が家を建ててありましたから、子供達の、自分の部屋が欲しいという要望が出た時、預金してあったのでそれを使い、子供達もバイトしながらも何

戦時下の少国民(続)

(私史) 入江昭三

後年、同級生の名に昭昭二、昭三の名が多いのを知った。

当時は男女七歳にして席を同じうせずで、男女別学。みな坊主頭で坊ちゃん刈りはいなかった。座席は二人用上蓋式木製二人使用の長い机であった。当時の教科書は国定教科書、自費で購入した。科目は算術(算数)、音楽は唱歌といった。工作と言う科目、高学年では珠算もあった。

学期末の通知票は気にした。成績不良は落第と

とか家が出来ました。二人の娘達は大学卒業後就職とそれぞれが働くようになり、やつと、自分も楽しみを持とうと色々のグループに入り、自分の時間を楽しむことが出来ました。

その後、娘たちは結婚し孫五人、曾孫五人の賑やかな家族が出来、そんな時デイサービスのお話があり、送迎バスに乗り、仲間にも励まされ、スタッフに助けられ、一日も休まず皆に逢うことを楽しみに、健康を第一として孫たちに手伝ってもらいながらも、毎日を楽しく過しています。



この制度もあり評価は甲・乙・丙評定でありこれは兵役、徴兵検査で即入営の甲種合格などと検定され、乙種以下は不名誉とされた。

2・26事件が2年生のときにあった。軍都宇都宮にあった14師団の兵隊が完全武装で、軍用トラックで出動していくのを目撃した。この事件のあったことは後で知った。

4年生のとき支那事変(日中戦争)がはじまり、戦地の兵士に贈る慰問袋に入れる慰問文を綴り方の時間にかかされた。その頃街中では千人針という兵士の銃弾よけのお守

とんかつ大将

額田美保

記憶力が良いと人から良く言われるけれど、そんな事はない。忘れて終った事ばかりだが、何か時折り鮮明に覚えてい

る事があるのが、不思議な気がする。別々に大した事でもないのに忘れられない。もつと大切な事があったらうに、それは忘れても覚えて居るので面白く思っている。折角覚えて居たことだからもう一度それぞれ書き残して置いてみようかと思ったりしている。

子供の頃の私は無口で本ばかり読んでいた記憶が有るが、女の子が本ばかり読んでいるといわれは、叱られる世の中だったので、隠れては何の本でも構わずに読み漁っていたのだが、私が夢中だった雑誌の連載小説は今も忘れない。

開店前の親戚の店にそつと忍び込んで、誰も居ない店に一人こっそり読む楽しさ。譚海(たんかい)り作りがはやっていて。大相撲の双葉山関の69連勝のストロップがラジオの放送で盛り上がりつつあったのは5年生であった。

6年生になって修学旅行があった。一泊二日で宮城(皇居)、明治神宮、横須賀の軍艦三笠を見学し宿泊は江の島の宿でした。つづく

と言う雑誌に載っていた「富田常雄」の小説「とんかつ大将」だった。こまかい筋は忘れたが、鬼に角、読んだ後が爽やかで主人公の素晴らしさに、子供ながらすかつとさせられたものだった。

弱い人を助ける為に悪人と闘い身を捨てて悪人をやつつけ、せめてお礼をと言おうと命がけで戦ったのにお礼はいつも「かつ井」一杯だけ。それが子供だった私を夢中にさせたようだ。



其の頃の庶民にとつて、かつ井は高嶺の花だったのかも知れない。子供の私にとつて、「とんかつ大将」は憧れだった。とんかつも憧れだった。

かち歩き大会

山科 順

昭和47年10月47才の時、初めて「かち歩き大会」新宿-青梅43kmに参加しました。

日曜日など、皇居の1周2km程を4〜5回走っているの、参加してみました。

ルールとして「飲まず、食わず、走らず」とあり、お金は封印されました。参加者は400人以上で、新宿〜荻窪までは、皆さん一緒に歩き、荻窪からじぶんのペースで、若い人はどんどん先へ行きました。途中5ヶ所程チェックを受けるところもあり、巡回車が見えて、走っている人を見て

は注意してました。あの程度行くと、道端でゴロゴロと、疲れて横になり休んでいる人も多くなりました。やつとゴールの青梅に着くと、疲れがどつと出ました。審判員から「第297番・7時間57分の記録表」を頂きました。帰る時、青梅駅の階段を上るのもやつとで、大分疲れました。新宿駅に着いたら、山手線に乗り換えるのですが、座席から立ち上がれず、足腰をさすりまくり、やつと立つことが出来ました。それから2年程参加しました。参加する1月前に皇居の周りを毎日曜日に、4〜5回位歩く訓練をしました。

結果は、48才で37位6時間20分、49才

古今抄(長期利用者の紹介)

藤田キクエ (H19年3月5日から通所)



平成19年3月5日より葵さんに通所し、最初はよく転びましたがスタッフの皆さんの指導により、リハビリの結果、大分よくなりましたが、現在は年令の為か、歩く事が少し不安です。葵さんに来る日は皆さんに逢えるのでとても楽

三宅文江 (H19年4月2日から通所)



色々なことをしてもらって、いい所だと思えます。あとはありまへん。よく食べ、よく眠るのが健康の秘訣です。

白神富美子 (H19年1月26日から通所)



私だけとおもっていたけれど、自分だけではないう事に気付く事ができました。色々な方と接して、こういう生き方があったし、あういう生き方があると教えてもらいました。お友達に話すところ、色んな情報も得られるので楽しいです。葵友の会の旅行とかも参加できるのでうれしいです。

宮地征勇 (H19年2月1日から通所)



葵に通所するようになって、パソコンを上手に操作出来るようになって来たので、だんだんパソコンのおもしろみがわかって来ました。他のご利用者さんと会話することで、色々な情報も得られるので楽しいです。葵友の会の旅行とかも参加できるのでうれしいです。

では46位6時間31分、初回47才の時より約1時間半早く歩きました。先頭を歩いていた競歩のグループの方は、3時間20分とか。

参考：毎年国際マラソン大会(42・195km)の記録は早くも2時間5分代...

